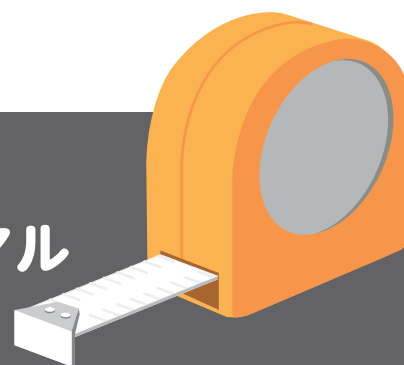


住宅改修

アプローチ手すり実測マニュアル

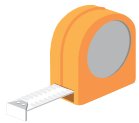
グラハン O-34G



弊社の廊下・階段手すりを住宅に設置するにあたり、
製品の特長や作図上の注意点、現場実測の方法についてまとめました。
本書をよくお読みのうえ、正しく実測を行ってください。

平成 22 年 7 月 30 日

ナカ工業株式会社



製品の特長

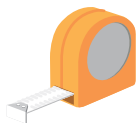
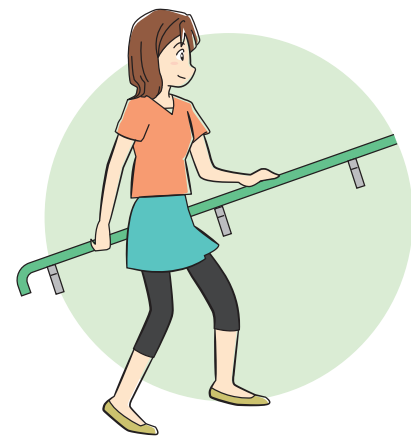
グラハン O-34G は、安全な歩行のガイドとして有効な屋外用の歩行補助手すりです。

笠木は、屋外においても長時間、樹脂の性能を維持する、耐候性樹脂製です。

金属製の手すりは、季節によって熱くなったり、冷なくなったりして素手では、握れなくなることがありますが、樹脂製手すりは、環境温度の影響を受けにくいいため、常に快適に使用できます。

笠木受けは、アルミ押出型材で強度も十分、曲げ加工が可能ですので、途切れのない連続した手すりの施工が出来ます。

固定方法は、壁にブラケットで固定する方法と、床から手すり子（支柱）を立ち上げて固定する方法の 2 種類があります。設置場所の状況に応じて使い分けます。



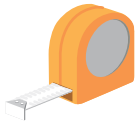
部品一覧表

笠木

部品名	姿 図	仕 様
O-34 笠木 φ34mm		<p>材質 耐候性半硬質樹脂二層成形 (光触媒・抗菌剤入り)</p> <p>定尺 20m/10m 巻 発注は 5m 単位で可能です。 ※要納期確認</p>

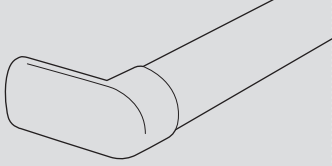
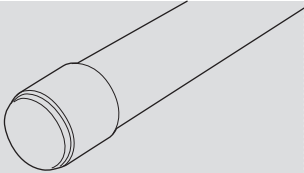
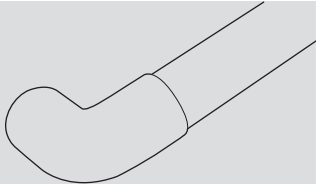
笠木受け

部品名	姿 図	仕 様
笠木受け		<p>材質 アルミ押出型材</p> <p>定尺 L=3m・4m</p>

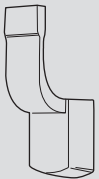



部品一覧表

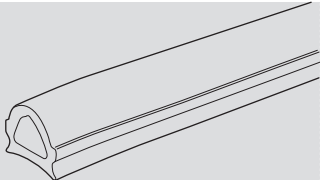
エンドキャップ

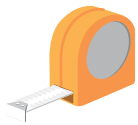
部品名	ディテール	仕様
VAエンド		被せタイプ 樹脂成形品
FAエンド		被せタイプ 樹脂成形品
RAエンド		被せタイプ 樹脂成形品

壁付けブラケット

部品名	ディテール	仕様
AFS-55 AFS-65 AFS-75		材質 本体：アルミ押出型材 (アルマイト+トップコート) カバー：樹脂成形品 No.02 グレー色
AES-55 AES-75		材質 本体：アルミ押出型材 (アルマイト+トップコート)

目隠しチューブ

部品名	ディテール	仕様
目隠しチューブ		材質 軟質樹脂



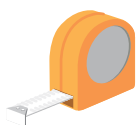
部品一覧表

壁付けブラケット

部品名	姿 図	仕 様
AGS-65		材質 本体：アルミ押出形材 (アルマイト+トップコート)
JS-55		材質 本体：亜鉛ダイカスト (梨地クロームめっき +トップコート) カバー：樹脂成形品
US-55 US-75		材質 本体：亜鉛ダイカスト (光沢クロームめっき +トップコート) カバー：樹脂成形品

手すり子(支柱)

部品名	姿 図	仕 様
ロングスパンリステ φ42.7mm		材質 ブラケット：亜鉛ダイカスト (光沢クロームめっき +トップコート) 支柱：ステンレス丸パイプ SUS304 (HLまたはバフ#400)

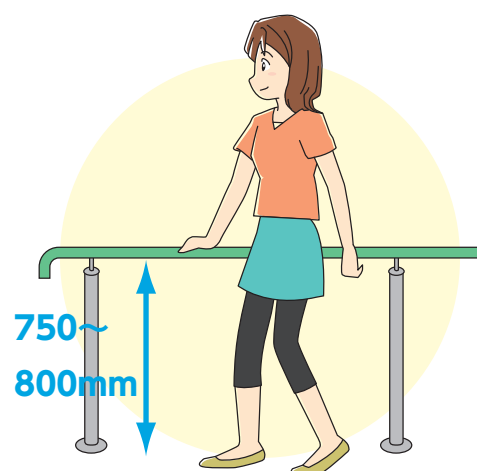


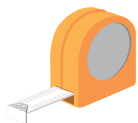
手すりの高さについて

歩行移動が制約されるお年寄りの方など、それぞれに使いやすい高さがあります。住宅で使う手すりの高さは、本人の使いやすい高さに設定します。不特定多数の利用が考えられる場合は、基準的な高さである750～800mm程度(※)にします。

※平成13年度版 住宅工事共通仕様書(住宅金融公庫 監修)より

主にご使用になる方が、杖を使用している場合、杖の長さに手すりの高さを合わせる考え方もあります。



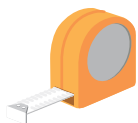


手すりの納まりについて

手すりは、基本的に玄関から門までの導線に沿って、連続して取付けることが望ましいのですが、ブラケットや手すり子が必要なため、適切な強度のある壁や床が必要になります。

このため、施工場所をよくご確認のうえ、取付ける場所を決めてください。特に、スロープや階段などは、事故が起こりやすい場所ですので、必ず手すりを取付けましょう。

基本的な納まりについては、本書 9p~10p を参照してください。



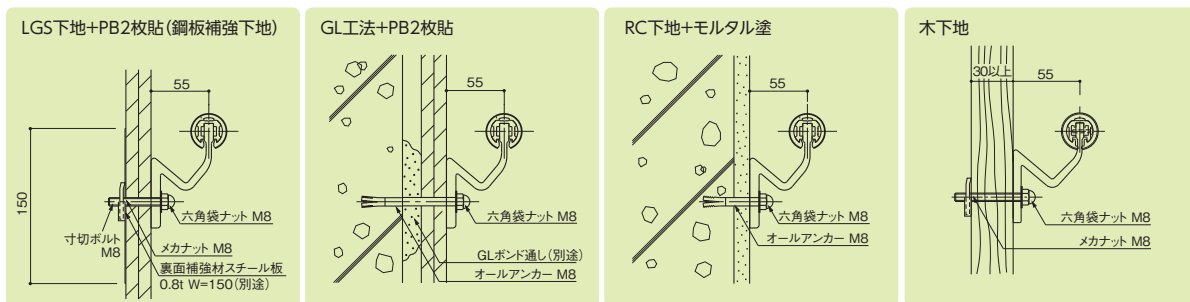
手すりの下地について

強度の弱い壁や、適切でない床などに手すりを施工すると、使用中に壁が壊れたり、支柱が抜けるなどして、手すりが外れ、重大な事故につながる可能性があります。手すりの取付けは、必ず強度のある壁か、適切な下地補強を行う必要があります。

壁付けタイプ下地例

下記のような、強度のある壁（下地）に取付けます。

強度の弱い壁（土壁や漆喰等）や下地補強のない壁には施工出来ません。

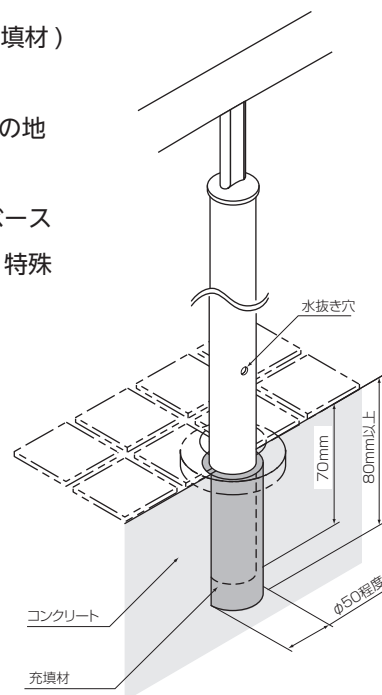


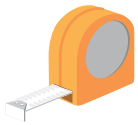
手すり子タイプ例

床をコア抜きし、常温硬化型エポキシ樹脂（充填材）で支柱を固めて固定します。

コア抜きが困難な床（御影石や大理石等）や土の地面への施工は特殊な施工になります。

その他、鉄骨階段への溶接施工、手すり子にベースプレートを付け、アンカーで固定する方法等、特殊な事例は、別途担当営業へご連絡ください。

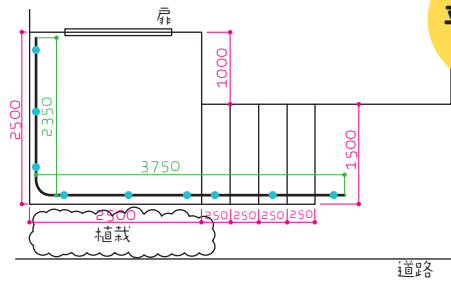




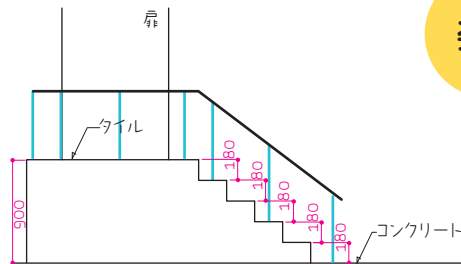
作図について

図面がある場合を除き、現場の実測が必要になります。基本的に平面図（上から見た図）と姿図（側面から見た図）が必要です。どちらかひとつが欠けると、手すりの曲がりや、傾きがわからなくなります。

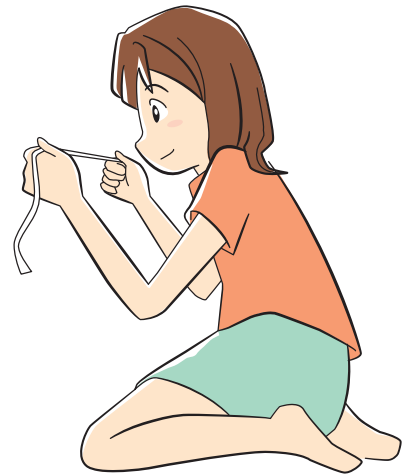
作図の手順（6P～8P）に従い、実測と作図をお願いいたします。



平面図



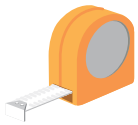
姿図



作図についてのお願い

- 手すりの笠木は、直線ごとに長さを記入してください。角度が付いている所（階段部等）は笠木本体の長さを記入します。一流れのトータル長さも必要です。
- ブラケットの位置、手すり子位置を明確に図示してください。ブラケットピッチ（ブラケット間の間隔）については、基準寸法を超えないようにします。
- 取付け場所が明確にわかるように、玄関ドアや窓、門柱など、目印になるものを図示してください。壁や床の仕上（素材）を記載してください。
- 階段は、各段ごとに幅（踏み面）と高さ（蹴上げ）を記入してください。
- スロープは、勾配がわかれば記入してください。不明な場合は、勾配の方向がわかるように記入してください。
- コーナーは、角度と曲げ方向がわかるようにしてください。（複数近接した曲がりには、対応できない場合があります）
- 笠木色、ブラケットの種類、エンドキャップの種類を明記してください。

不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



作図の手順

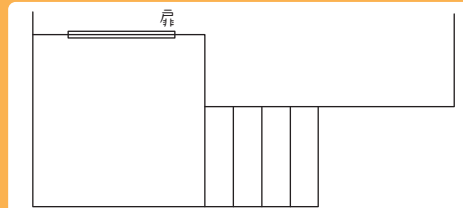
① 玄関扉の位置を描きます

まずは玄関扉を記入してください。玄関扉から、道路までのアプローチを記入していくことになるので、玄関扉は、上の方に描いておくと、後々描き込みやすくなります。



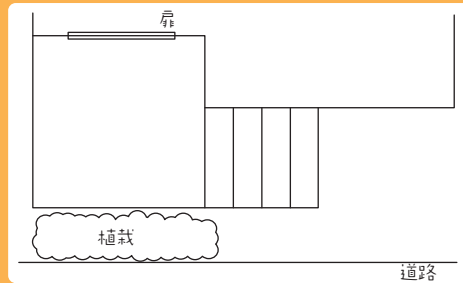
② 玄関扉から道路までの道筋を描きます

玄関扉から道路までの道筋、アプローチを描いていきます。階段などは段数を間違えないように、記入していきます。



③ 道路を描きます

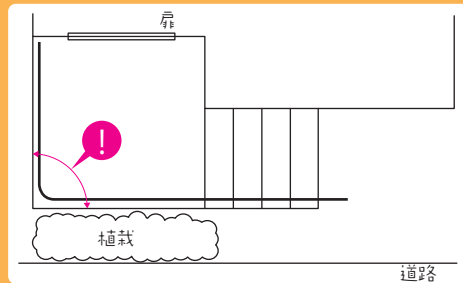
アプローチが描けたら、道路の端部を描いてください。門扉などもあれば記入します。植木などがある場合も同様に記入してください。



④ 手すりを描きいれます

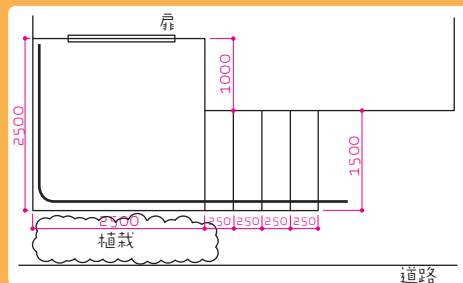
玄関扉から道路までの間で、手すりが必要と思われる箇所に、手すりの導線を描き込んでいきます。

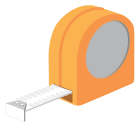
❗ コーナーが直角の90度以外の場合は、角度を記入してください。



⑤ アプローチの寸法を書き入れます

アプローチの詳細寸法を書き入れていきます。階段がある場合、踏み面ごとに寸法を測ってください。

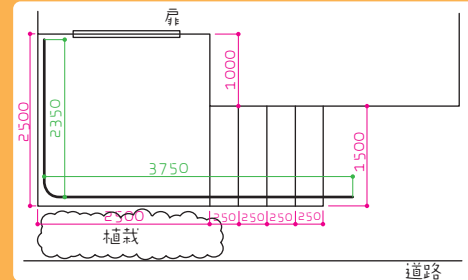




作図の手順

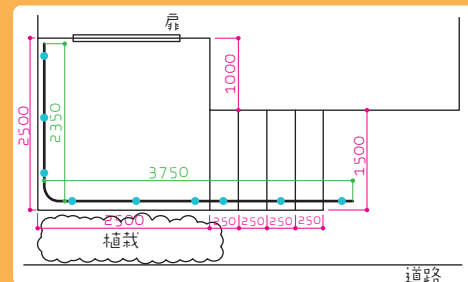
6 手すりの寸法を書き入れます

手すりの寸法を記入します。手すりの芯で寸法を測ってください。



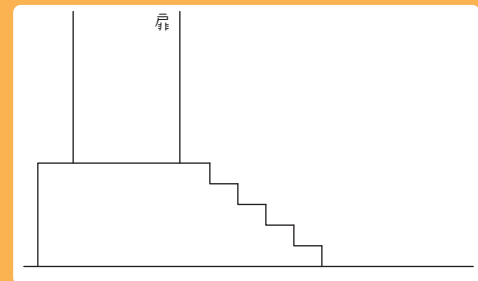
7 支柱・ブラケットの位置を記入します

9ページの各部納まり図を参考に、支柱・ブラケットの位置を書き込んでください。



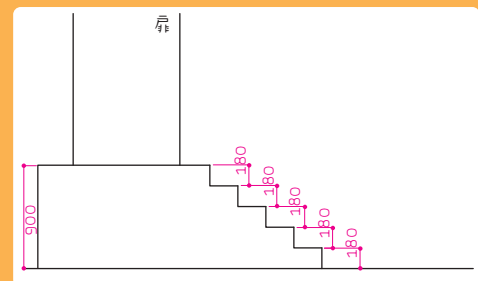
8 平面図をもとに姿図を描きます

平面図に基づいて姿図（側面から見た図）を描いていきます。まずは扉、アプローチを描いてください。



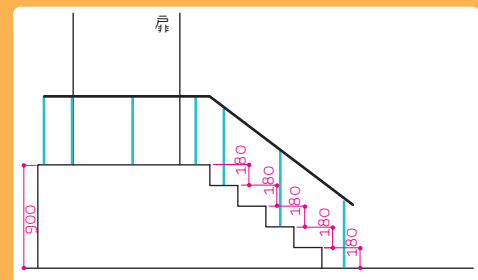
9 アプローチの寸法を書いています

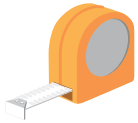
アプローチの寸法を書いています。階段がある場合は、蹴上げの寸法も1段ずつ測って、記入してください。蹴上げと踏み面の寸法から勾配の角度が得られますので重要です。



10 手すりを描き込みます

平面図をもとに、手すりを描き込みます。支柱、ブラケットも平面図と同じ位置に描き込んでください。

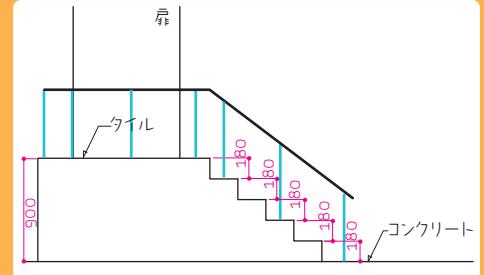




作図の手順

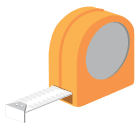
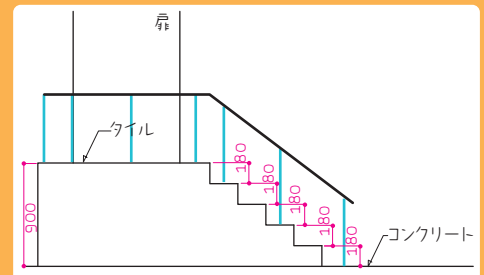
11 壁や床の材質を記入します

壁や床の材質を、わかる範囲で記入します。タイル、コンクリート、サイディング、ブロック塀等を記入してください。

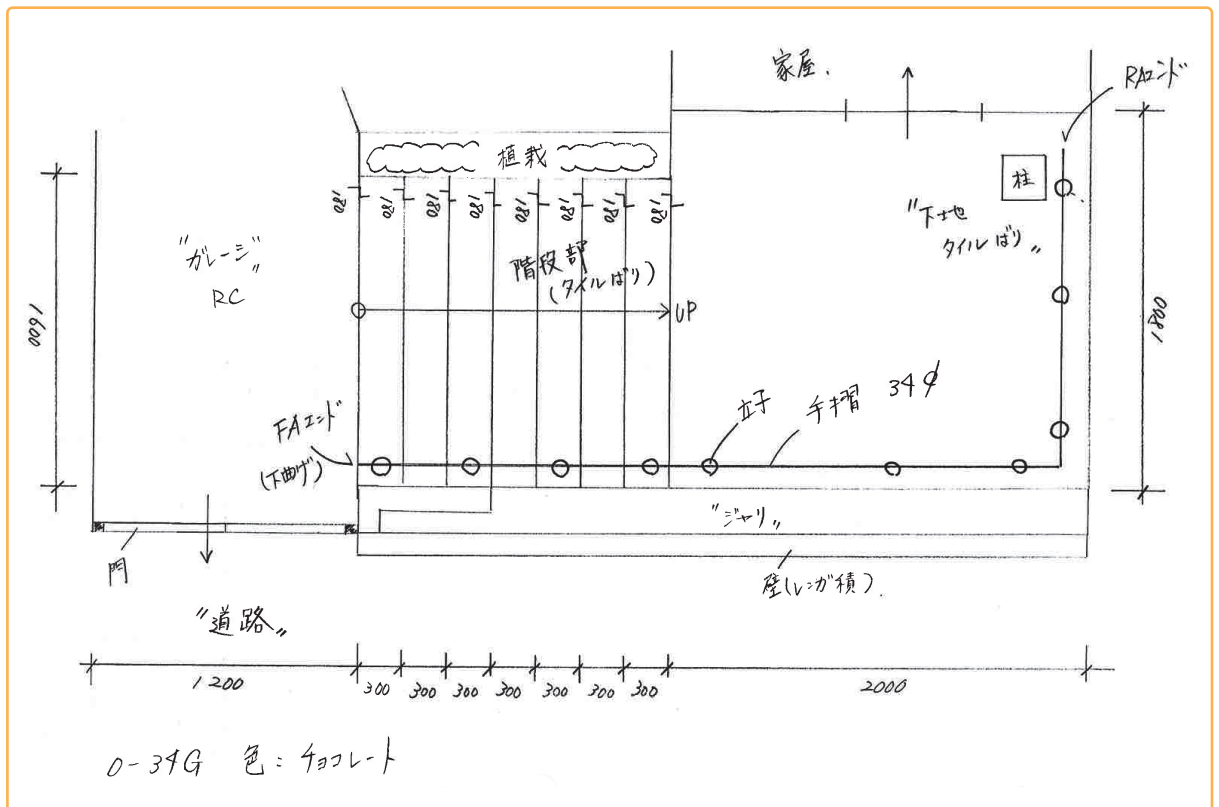


12 手すりの仕様を書き込みます

手すりの端部の処理、支柱、ブラケットの種類(部品名)、色等を記入します。
平面図とあわせて弊社窓口まで、FAX 又は郵送でお送りください。



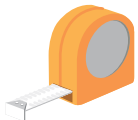
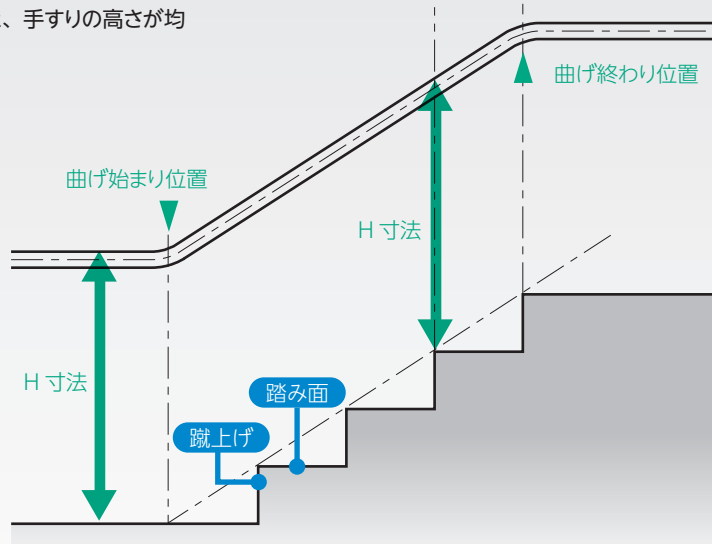
作図例 (平面図)





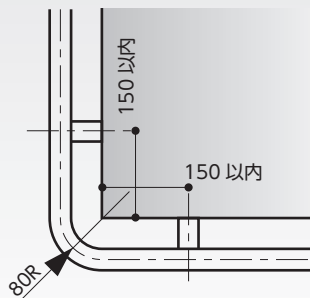
階段部

一段分手前から曲げると、手すりの高さが均一になります。

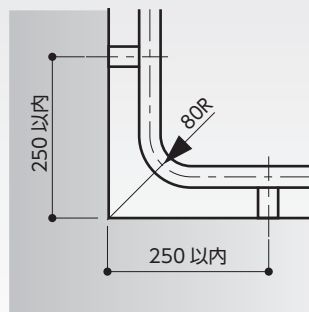


曲げ部

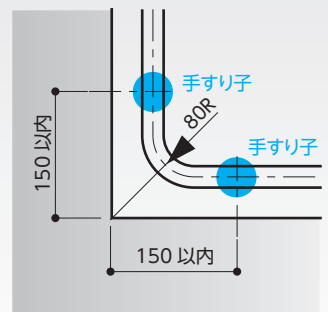
出隅コーナー



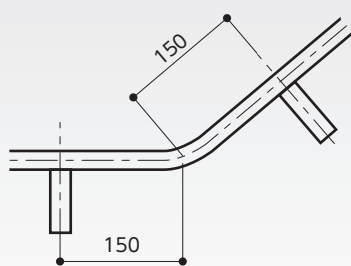
入隅コーナー（壁付け）



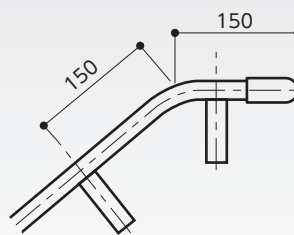
入隅コーナー（手すり子）



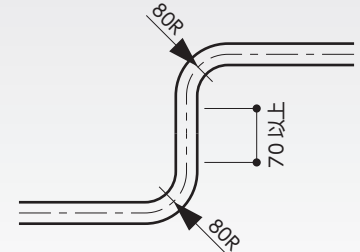
への字曲げ

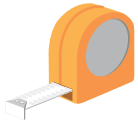


への字曲げ最小寸法



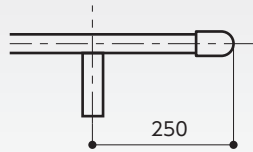
クランク



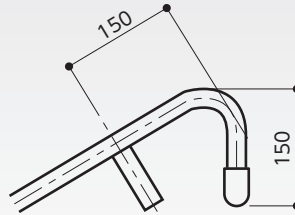


端部

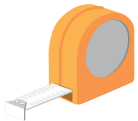
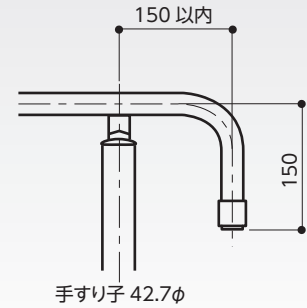
端部最大寸法



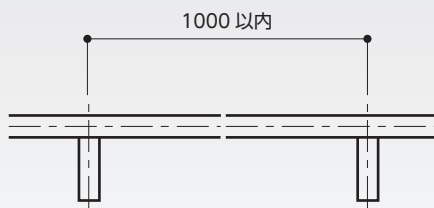
垂下り部最大寸法



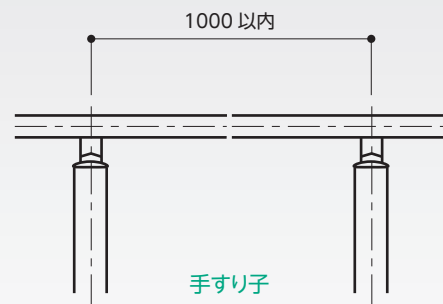
手すり子立ち下げ



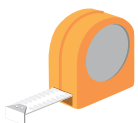
ブラケットおよび手すり子ピッチ



壁付けブラケット



手すり子



R加工について

R加工の場合、最大ブラケットピッチは800mmとなります。

※急なRの場合は、700以内に手すり子を設置する場合があります。

